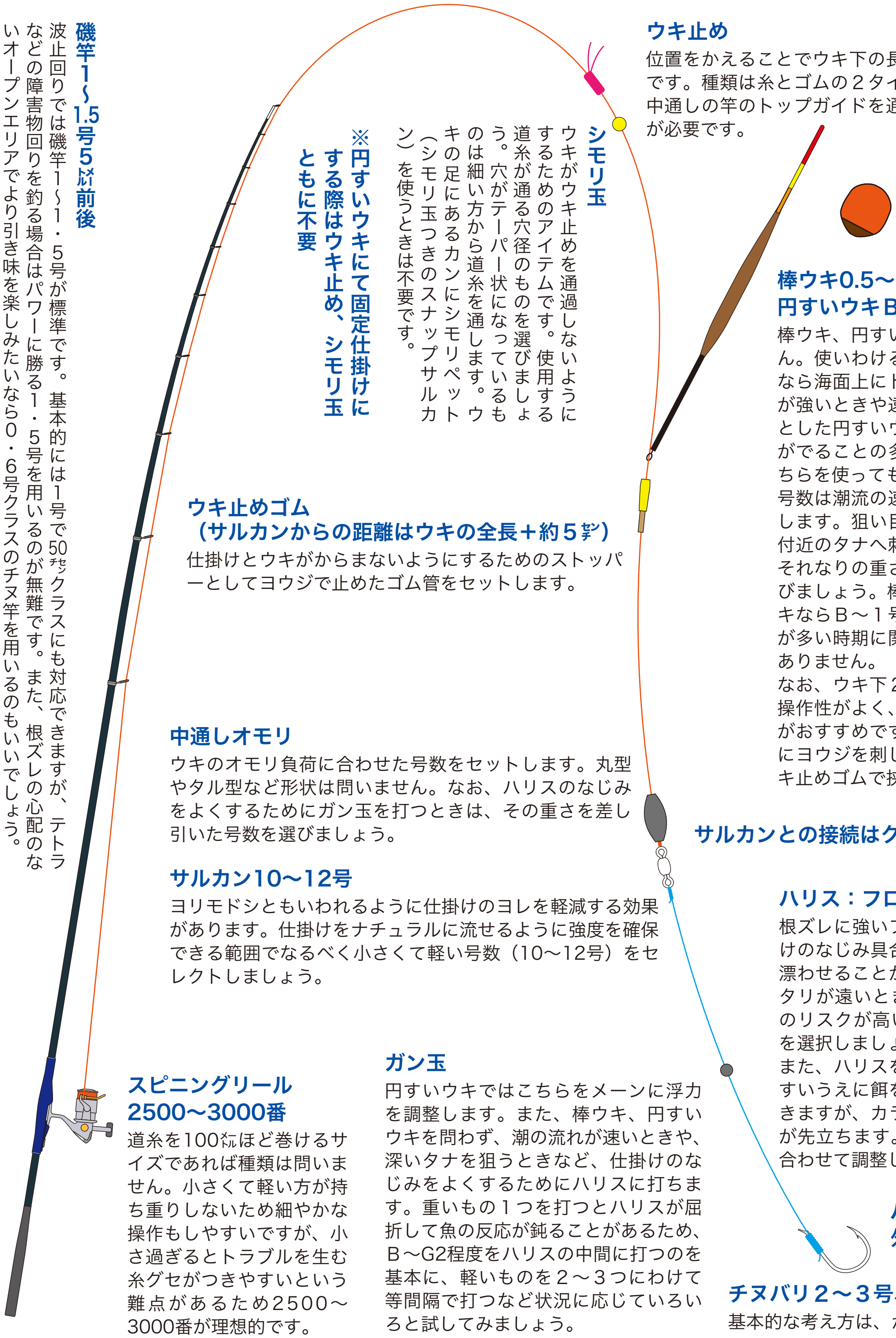
②波止フカセ釣りスタイル

足もとの基礎石や沖のカケアガリなど、狙い目となるポイントが各所に点在する波止回りでは遠投ができて広範囲を探れるウキ釣りがマッチします。対応力の高さを生かしてさまざまなポイントを攻略し、ゴンゴンと頭を振る強い引きを体感しましょう

道糸：ナイロン２～３号

トラブルが少なくて扱いやすいフロートタイプのナイロンが基本です。号数が細いほど遠投性や仕掛けのなじみ具合が向上します。40㌢クラスまでのサイズであれば２号をメーンに、テトラやスリットケーソンなど障害物が足もとにある釣り場では３号も視野に入れておきましょう。そして、仕掛けが流れるコースに影響を及ぼす糸フケの修正がしやすいように、視認性のよいカラーを選ぶのが理想的です。



磯竿1～1.5号5㍍前後

波止回りでは磯竿1～1・5号が標準です。基本的には1号で50㌢クラスにも対応できますが、テトラなどの障害物回りを釣る場合はパワーに勝る1・5号を用いるのが無難です。また、根ズレの心配のないオープンエリアでより引き味を楽しみたいなら0・6号クラスのチヌ竿を用いるのもいいでしょう。仕掛けの長さを考慮すると、竿の全長は5㍍前後はほしいところです。竿が短いと、投入時に仕掛けが地面について思うように飛ばなかったり、足もとにあるテトラなどの障害物をかわしにくいといった釣りづらさを覚えます。

ウキ止め

位置をかえることでウキ下の長さ（タナ）を調整するアイテムです。種類は糸とゴムの２タイプがありますが、ゴムタイプは中通しの竿のトップガイドを通り抜けないことがあるので注意が必要です。

シモリ玉

ウキがウキ止めを通過しないようにするためのアイテムです。使用する道糸が通る穴径のものを選びましょう。穴がテーパー状になっているものは細い方から道糸を通します。ウキの足にあるカンにシモリペット（シモリ玉つきのスナップサルカン）を使うときは不要です。

※円すいウキにて固定仕掛けにする際はウキ止め、シモリ玉ともに不要

棒ウキ0.5～1.5号、円すいウキＢ～１号

棒ウキ、円すいウキのいずれでも問題ありません。使いわけるとすれば、繊細なアタリをとるなら海面上にトップが出ている棒ウキ、風や波が強いときや遠投が求められるときはどっしりとした円すいウキという具合です。鋭いアタリがでることの多い春や秋の好期に関しては、どちらを使っても釣果に大差はありません。

号数は潮流の速さや狙いのタナを考慮して選択します。狙い目となる基礎石やカケアガリの底付近のタナへ刺し餌がきちんとなじむように、それなりの重さのオモリを乗せられる号数を選びましょう。棒ウキなら0.5～1.5号、円すいウキならＢ～１号が標準的です。活性が高いことが多い時期に関してはむやみに軽くする必要はありません。

なお、ウキ下２ﾋﾛまでの浅いタナを攻めるなら操作性がよく、アタリが明確にでる固定仕掛けがおすすめです。円すいウキの場合は中通し穴にヨウジを刺し、棒ウキの場合はウキ止めとウキ止めゴムで挟んで固定します。

ウキ止めゴム（サルカンからの距離はウキの全長＋約５㌢）

仕掛けとウキがからまないようにするためのストッパーとしてヨウジで止めたゴム管をセットします。

中通しオモリ

ウキのオモリ負荷に合わせた号数をセットします。丸型やタル型など形状は問いません。なお、ハリスのなじみをよくするためにガン玉を打つときは、その重さを差し引いた号数を選びましょう。

サルカンとの接続はクリンチノット

サルカン10～12号

ヨリモドシともいわれるように仕掛けのヨレを軽減する効果があります。仕掛けをナチュラルに流せるように強度を確保できる範囲でなるべく小さくて軽い号数（10～12号）をセレクトしましょう。

ハリス：フロロ1.5～2.5号１.5ﾋﾛ前後

根ズレに強いフロロが基本です。細いほど仕掛けのなじみ具合が向上、刺し餌をナチュラルに漂わせることができます。２号を基準にし、アタリが遠いときは1.5号に落としたり、根ズレのリスクが高い障害物の多い釣り場では2.5号を選択しましょう。

また、ハリスを長く取るほど仕掛けがなじみやすいうえに餌をナチュラルに漂わせることができますが、カラミが多くなるなどの扱いにくさが先立ちます。1.5ﾋﾛを基準とし、魚の反応に合わせて調整しましょう。

スピニングリール2500～3000番

道糸を100㍍ほど巻けるサイズであれば種類は問いません。小さくて軽い方が持ち重りしないため細やかな操作もしやすいですが、小さ過ぎるとトラブルを生む糸グセがつきやすいという難点があるため2500～3000番が理想的です。

ガン玉

円すいウキではこちらをメーンに浮力を調整します。また、棒ウキ、円すいウキを問わず、潮の流れが速いときや、深いタナを狙うときなど、仕掛けのなじみをよくするためにハリスに打ちます。重いもの１つを打つとハリスが屈折して魚の反応が鈍ることがあるため、Ｂ～G2程度をハリスの中間に打つのを基本に、軽いものを２～３つにわけて等間隔で打つなど状況に応じていろいろと試してみましょう。

ハリスとハリは外掛け結びで接続

チヌバリ２～３号、伊勢尼６～８号

基本的な考え方は、かかり釣りスタイルと同様です。